鶴報

第２５０号
2023年７月20日

日本大学鶴ヶ丘高等学校　広報部
東京都杉並区和泉２－26－12
TEL　03－3322－7521（代）
https://www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp

第１学年　オリエンテーション

学　校　行　事　《 第１学期 》

４月６日　第72回入学式
　　７日　始業式
　　８日　部活動説明会
　　10日　全学年スタディーサポート
　　12日　１年オリエンテーション（～14日）於富士緑の休暇村
　　19日　１・２年基礎学力到達度テスト
　　20日　３年基礎学力到達度テスト
　　22日　全学年保護者会・海外語学研修説明会
　　24日　生活指導講演会
　　25日　定期健康診断
　　26日　３年特進コース実力試験（～27日）
５月２日　生徒総会（前期）
　　８日　３年実力養成講座
　　（普通：～９月26日、特進：～10月28日）
　　12日　１年学年行事、２・３年校外授業
　　13日　オープンスクール
　　２年保護者対象修学旅行説明会
　　22日　中間試験（～25日）
　　教育実習開始（～６月10日）
　　26日　２年特進コース　共通テスト対策講座
　　（～令和６年２月26日）
　　27日　英検準会場受験
　　31日　３年普通コース志望理由書講座
６月１日　３年特進コース共通テスト模試（～２日）
　　２日　３年普通コース日大チャレンジ模試
　　７日　１年総進コース進路適正テスト
　　２年総進コース自己分析テスト
　　３年普通コース志望理由書サポート
　　17日　１年キャリアガイダンス
　　校内英語スピーチコンテスト
　　24日　鶴ヶ丘祭（～ 25日）
７月１日　特待生・奨学生授与式
　　３年生徒・保護者対象進路説明会
　　４日　期末試験（～７日）
　　10日　答案返却授業（～11日）
　　14日　２・３年特進コース記述模試
　　15日　三者面談（～19日）
　　20日　１学期終業式・防災訓練
　　21日　２・３年特進コース合宿講習（～25日）
　　24日　夏期講習Ⅰ期（～28日）
　　26日　海外語学研修（NZ）（～８月16日）
　　27日　海外語学研修（AU）（～ 8月16日）
８月19日　部活動フェス
　　23日　夏期講習Ⅱ期（～28日）

入学おめでとうございます

令和５年度 第72回入学式

413名（男子213名・女子200名）が仲間入り

Welcome to Nihon University Tsurugaoka Senior High School !

令和五年度入学式が四月六日（木）午前十時より、本校体育館で行われた。真新しい制服に身を包んだ四一三名の新入生は、咲き誇る桜に祝福されながら新たな一歩を踏み出した。

来賓には、日本大学学長代理、丸山総一生物資源科学部長をはじめ、多くの方々を迎え、晴れやかにして厳かに式が挙行された。式終了後、新一学年の学年主任、学級担任、学年担当が壇上に上がり、新藤隆夫教頭によって新入生保護者に紹介された。

式次第

開式
国歌斉唱
学校長式辞　川原　容子校長
学長祝辞　酒井　健夫学長
（代読 丸山総一生物資源科学部長）
在校生代表歓迎の言葉
生徒会長
三Ｅ　村上　琴乃
（板橋三中）
新入生代表誓いの言葉
一Ｇ　萩生田知宙（幸並中）
新入生保護者代表挨拶
中道　高之 様
校歌斉唱
来賓紹介
閉式

式辞

学校長　川原 容子

春本番を迎え、花々が競うように咲き誇っている今日の佳き日に、四一三名の新入生を迎え、令和五年度第七十二回日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長丸山総一先生をはじめ執行部の先生方、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、学校を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生一同、皆さんの入学に対し、心から歓迎いたします。皆さんは自らの意志で本校を選び、厳しい入学試験を突破し、本日を迎えました。入学式は、皆さんが自ら学び、自ら成長することを決意するとともに、本校の伝統を受け継ぎ、さらに発展させることを誓う場です。また、鶴ヶ丘高等学校での生活をスタートするにあたり、本校の校訓である「**自主創造**」「**真剣力行**」「**和衷協同**」を心にしっかりと刻んでください。

「**自主創造**」とは、日本大学の建学の精神でもあり、知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、自分の道を切りひらいて行くことです。

「**真剣力行**」とは、何事にも新鮮な発想を持ち、強い自制心を持って全力を尽くすことです。

「**和衷協同**」とは、周囲の人たちと同じ目標に向かって力を合わせ、心を一つにともに行動することです。

本校では、この三校訓をもとに、日本大学の「教育憲章」にもつなげてグランドデザインを作っています。そして、育みたい生徒像を主体的に、協働的に「考える生徒」「学ぶ生徒」「道をひらく生徒」としています。

高校生活においては、義務教育にはない厳しさがあり、積極性が求められる場面も多くなりますが、すべての授業・行事・部活動など、校内はもちろん、校外の活動においても「目標に向けてどう楽しく挑戦をしてやり抜けるか」を自らが考え、学んでください。

これから高校生活を始めるにあたり、皆さんに三つのお願いがあります。

一つめは「**対話ができる力をしっかりとつけていく**」ということです。

皆さんは様々な地域からこの鶴ヶ丘高校に入学して、今日から縁あって大切な仲間になります。その一人ひとりは、違った考え方、感じ方を持っています。まずは、そのうえで出てくる異なる意見や考えに耳を傾けましょう。

時に分かり合えないことがあったとし

ても、粘り強く「対話」をすることをあきらめないでください。そして、「対話」をしていく中では、必要に応じて主張してきた意見を潔く変えていく勇気も必要です。

また、様々な場面で、多様な人々との協働がより求められます。特に多国籍の人々との対話では、英語が主流となります。分かり合えないことを前提とする異文化においては、他言語の学びはもちろん、日本の文化や習慣を理解し、伝える力も求められます。

ゆっくりと、しかし確実に先ずは「**日本語で対話ができる力**」をつけていきましょう。

二つめは「**生活習慣を確立し規律を守る**」ということです。

具体的には、学校生活において「礼儀をわきまえ挨拶をする」「物を大切にする」更に「時間管理ができる」ことが求められます。

これらのことは学校だけではなく、社会生活を営む上でも基本となります。

三つめは「**勉強することは、教科書をはじめ本を読むことである**」ということです。本を読むことは、自分とは違った人の考え方を学び、その人生を追体験することでもあります。色々な考えに触れ、自身の世界を深め、広げることが出来ます。

その中から学びを深める、時には物事の本質を考え「探究していく力」も養ってください。また、教科書を読むことで、自学自習する習慣化につなげ、学力の定着を図ることが期待できます。

今日から鶴ヶ丘生として、周囲への気配りと思いやり、感謝の心を大切に、心豊かな人に成長してください。

結びになりますが、この鶴ヶ丘高校での三年間が充実した日々となるよう、教職員一同、しっかりと育ててまいります。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針に、深い御理解と御協力をいただけますようお願いをし、式辞とさせていただきます。

令和五年四月六日

祝辞

日本大学学長
日本大学短期大学部学長
酒井　健夫

本日、ここに令和五年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式が挙行されるに当たり、日本大学を代表して新入生の皆さんにお祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんは過去三年間にわたり、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、勉学や課外活動に大きな制約を受けたことと思います。そのような状況にあっても、皆さんは、たゆまぬ努力によって、本校入学を果たされました。御努力をたたえ、心からお祝い申し上げます。保護者の皆様方におかれましては、お子様の御入学を心からお祝い申し上げるとともに、お子様の在学中、本校の教育方針を御理解いただき、御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本大学は、数年にわたり不祥事が続きましたが、昨年七月に、林真理子理事長とともに私が学長に就任し、新体制が発足いたしました。現在、社会からの信頼回復に向け、学内外の声に耳を傾けながら「教学優先」の再生・復興のため、「日本大学ルネサンス計画」に、スピード感をもって取り組んでおります。新入生の皆さんは、全力で勉学に、スポーツに、文化活動に励み、学校生活を過ごしてください。

さて、本校は、日本大学の教育理念である「自主創造」、すなわち「自らが勉強し、自らが物事に取り組み、自らが道をひらく」という自律の精神の下に、勉学はもとよりスポーツや文化活動においても顕著な実績を積み重ね、地域に根ざした校風と社会に誇れる伝統を築いてきました。新入生の皆さんは、この恵まれた環境で、知識を学び、感性を磨き、体と心を鍛えてください。皆さん一人一人が、輝く人生を歩み続け、社会に貢献できる人材となる大きな可能性を持っています。ぜひ本校でたくましく成長し、将来に向けての土台を築いてください。

新入生の皆さんが充実した学校生活を過ごすために、私は次の三つのことを申し上げます。まず、第一として、本校で学ぶ目的意識を明確に持ってください。「学校」、すなわち「スクール」の語源は古代ギリシャ語の「スコレー」であり、この言葉には「ひまな時間」という意味があるそうです。皆さんは学校で勉学に専念できる特権を与えられています。ですから、皆さんにはそれに応えて学校生活に取り組んでください。ただし、取り組んでいただきたいのは、勉強だけではありません。皆さんは、これから始まる長い人生の助走路、いわば準備段階にあるわけです。自分が将来どのような人物になり、何をしたいのかを真剣に考え、将来の方向を固めなければなりません。そのためにも、この学校で幅広い知識や教養、社会の実情を学んで目標を定めてください。

第二として、音楽でもスポーツでも文化活動でも結構です。勉強以外に熱中できるものを持ってください。感性豊かなこの時期に情熱を傾けられるものを持ち、取り組んでください。それによって幅広い人間が形成でき、自身の可能性が広がります。本校では、部活動など課外活動を奨励しておりますので、生徒の皆さんが相互に刺激し合い、潜在力と個性を伸ばし、自主性と協調性、更には責任感を養い、精神的に強い生徒になってほしいと願っています。

第三として、本校の先生方との絆を大切にし、仲間と交わり親友を作ってください。特に中学・高校時代にできた親友は、生涯の友となります。楽しい時はもちろん、辛い時や悲しい時、その気持ちを友人と分かち合えるはずです。

さて、日本大学は明治二十二年、明治政府の初代司法大臣であった学祖山田顕義先生らが、日本の歴史・文化・習慣を踏まえた法学を教育・研究する学校が必要であると考えて創立した日本法律学校を前身としています。その後も、「建学の精神」を継承しながら、各時代の社会状況や学術の進展に果敢に挑戦して、現在では文系・理系・医歯薬系と幅広い学問領域に及ぶ、世界でも有数の規模を誇

る総合大学へと発展しました。さらに、全国にある付属高等学校・中学校とも強い連携と協力の下、人間力ある日大人の育成に力を入れています。大学の卒業生は百二十万人を超え、日本はもちろん世界の各地で、あらゆる分野で活躍しています。皆さんは、本日から日本大学の付属である本校の生徒であります。学祖山田先生と日本大学の発展の歴史を知り、「自主創造」の精神について学んでほしいと思います。そのことが心豊かな学校生活を送る上で、大いに役立つと確信しています。

これからの皆さんの人生がどのように発展していくかは、皆さんの本校での過ごし方次第です。結びに皆さんが有意義で充実した学校生活を送られることを祈念し、私の祝辞といたします。

令和五年四月六日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

令和五年三月四日に行われた令和四年度卒業式の「学校長式辞」と「学長祝辞」は例年通り本号に記録として掲載する。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

式辞

学校長　川原　容子

日一日と桜の開花が待ち遠しいこの佳き日、令和四年度第七十二回日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業証書授与式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長丸山総一先生をはじめ、執行部の先生方、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、このような卒業式を挙行できます事は、卒業生は元より教職員一同この上ない歓びであります。ここに学校を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

四二三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

早いもので、入学式から三年、皆さんは本日めでたく本校所定の課程を終え、卒業式を迎えました。この日を迎えられたのは、皆さんの努力はもちろんですが、今日まで支えてくださった家族をはじめ、多くの方々のご指導やご協力のおかげでもあります。そのことに感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

さて、卒業生のみなさんには、二つの言葉を贈りたいと思います。

最初に『**素直な気持ちをもって、謙虚に生きる**』

今、皆さんは将来への大きな夢を持っていると思います。昔から、偉大なる人たちは、失敗や逆境に抗いながらも、不屈の精神で生き抜き、夢を実現していった経験を多く持っています。

しかし、世の中は甘くない、現実は厳しいと我慢をしながら結局は夢半ばであきらめる人もいます。反対に、順風満帆に思われた夢への実現において、感謝を忘れ、自惚れ故に夢を壊してしまう人もいます。

目まぐるしく変化の速い時代にあっても、最も大切なことは、その与えられた環境に先ずは感謝し、「素直」に「謙虚」に生きていけるかどうかだと思います。

素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み人は自分と向き合うことをやめてしまいます。

素直さは、人を強くし、正しく聡明にしてくれる力だと思います。環境の違いを憂えるのではなく、厳しいときは素直に受け入れ、うまくいっているときは、その環境に感謝をして、素直にまっすぐ伸びていく人になってほしいと思います。

二つ目は、『**和して同ぜず**』を心にとめて自分の道を拓いていって欲しい。

『**和して同ぜず**』とは、むやみに群れて同調せず、「**協調**」すなわち利害や立場が逆の、対立しあう者同士であっても、互いに譲り合ったり、助け合ったりしながら、同じ目標に向けて協力し合うことが出来ることです。

鶴高生として過ごした三年間では、辛く厳しい出来事や経験があったかもしれません。

しかし、本校の三校訓の一つ「**和衷協同**」のもと、様々な活動を通じて、同じ目標に向けて協同出来たことも、多くあったと思います。

世界や社会の分断を目の前にして、不透明な未来に、不安を抱くことも正直あります。特に、コロナ禍では、人の気配すら消された中で、独りよがりに、閉じこもってしまう辛さも経験してきました。

しかし、一人ひとりが、人を慮っていくことを心にとめていけば、様々な分断も解決できるきっかけがあると信じています。

人生一〇〇年といわれる中、目の前に続く多くの時間を、何に変えていけるのかで、人生の質は決まります。

幸せは自分の中にあります。先ず、自分のために一生懸命出来ることを探せた人は、どんな辛いことも超えていけます。素直な気持ちを持って、謙虚に生きることで道は必ず拓けます。

三校訓のもとで学んだことを糧に、多様な人々と「**協調**」しながら、選んだ道をきわめ、自国はもちろん他国にも貢献できる人材として活躍することを、心から祈念します。

結びに、保護者の皆様には、立派に成長され、鶴ヶ丘高校を巣立とうとしているお子様の姿をご覧になり、お喜びいかばかりかと存じます。

ここに、お子様の卒業のお祝いと、ここまで育てられたことに対し、敬意を表すとともに、感染症拡大の中にあっても、三年間にわたる本校に対する多大なるご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

令和五年三月四日

祝辞

日本大学学長
日本大学短期大学部学長
酒井　健夫

本日ここに、令和四年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業式が挙行されるに当たり、日本大学を代表して卒業生の皆さんに祝辞を申し上げます。

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。令和元年に、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行・拡大が始まり、本校はこれまで経験したことのない状況下となり、勉学や課外活動に大きな制約を受けることになりました。そのような苦境にあっても、皆さんは、たゆまぬ努力と頑張りによって、本日、所定の教育課程を修了し、卒業式を迎えられました。心からお祝いを申し上げるとともに、今後の御活躍と輝く人生を期待いたします。

保護者の皆様方におかれましては、お子様が卒業という晴れの日を迎えられましたことに、感激もひとしおのことと存じ上げます。心からお喜び申し上げます。さらに、お子様が在学中、本校の教育方針を御理解いただき、多くの御支援と御協力を賜りましたことに、御礼を申し上げます。

日本大学は、数年間にわたって不祥事が続き、卒業生の皆さん、また保護者の皆様方や教職員の方々にも、大変な御心配と御迷惑をお掛けいたしました。前体制の一部の経営側が行ったこととはいえ、教学の責任者として、改めておわび申し上げます。昨年七月に、林真理子理事長と共に、私が学長に就任し、日本大学の新体制が発足いたしました。

現在、本学では信頼回復に向け、学内外の声に耳を傾けながら「教学優先」の再生・復興のため、「日本大学ルネサンス計画」に、スピード感をもって取り組んでおります。必ず皆さんの誇りとなる日本大学に再生させることをお約束いたします。

さて、皆さんの門出の日に当たり、本学の教育理念の「自主創造」について、改めて話をさせていただきます。

「自主創造」は、日本大学の学祖である山田顕義先生の考え方、生き方を基とした言葉で、「自らが勉強し、自らが物事に取り組み、自らが道をひらく」という自律の精神です。

山田先生は、江戸から明治へと変わる激動の時代に、軍人、政治家、教育者として活躍した人物です。現在は、山田先生の時代と同じように、歴史上の大きな転換点にあるといわれています。世界は新型コロナウイルス感染症の世界的流行が未だ収束せず、米中の対立、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、人類の存続を脅かす地球温暖化や環境問題、国内では少子高齢化、ＡＩつまり人工知能社会への対応など、これまでの常識では解決が困難な問題が山積しています。

皆さんは、こうした難しい時代に適応し、たくましく生き抜いていかなければなりません。新たに進む世界でも、自分の限りない可能性に向けて、あらゆることに好奇心を持ち、何事にも積極的に「自主創造」の精神でチャレンジしてください。有意義で充実した人生を送るために、夢や希望を持ち、将来自分はどのような人間になりたいのか、社会の中でどのような役割を果たしたいのか、長所や適性は何かを真剣に考え、「志」を立ててください。「志」とは、自身の心に秘めた目標で、その「志」を達成するために、今成すべきことに全力で取り組んでください。そうすれば、やがて周囲からも認められ、協力が得られ、「志」は実現し、社会にも貢献することができると確信しています。それは、論語の「徳は孤ならず、必ず隣有り」という格言のとおりになるということです。

先ほども述べましたとおり新型コロナウイルス感染症は、今までの社会常識を一変させ、日常の生活に大きな影響を与えました。世界の人々の往来は止められ、国内でも人の移動が制限されました。皆さんも授業や課外活動、友人との交流が制限されるなど、不便な生活を強いられたと思います。このような状況の中で、皆さんは日々の変化に対応しながら、この苦難を乗り越えてこられました。これからの人生においても、辛いこと悲しいことがあると思いますが、この経験が苦難を克服する大きな力となることでしょう。

最後になりますが、卒業生一人一人に愛情を持って接し、勉強はもとより、課外活動においても、熱心に指導に当たってこられた本校の教職員各位に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

卒業式の別れは、永久の別れではありません。皆さんそれぞれが歩む道で努力し、再び出会うための出発の日であります。「自主創造」の精神の下、本校で学んだ自信と誇りを胸に、これからも活躍されんことを祈念して、私の祝辞といたします。

令和五年三月四日

広報室

〈異動（転入）〉

柿沼　宏暢　先生（英語科）

令和五年四月一日付で、日本大学豊山高等学校・中学校より、本校に着任されました。

私は、四つの力「気力・実力・魅力・迫力」を大事にしています。自己研鑽を積み、皆さんと一緒に成長したいと考えています。よろしくお願いします。

山岡　友子　課長補佐

令和五年四月一日付で、日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校事務課より、本校に着任されました。

入村　香織　課員

令和五年四月一日付で、日本大学生物資源科学部庶務課より本校に着任されました。

〈新任〉

◎非常勤講師

須嵜　海都　先生（国語科）

新学期が始まり様々な期待と不安があると思いますが、一日を大切に共に頑張って行きましょう！

野澤　拓真　先生（国語科）

「所求第一義」をモットーに、本質に迫る国語の授業ができるよう頑張ります。

長島　広夏　先生（国語科）

皆さんと楽しく学びを深めていけたらと思います。これからよろしくお願いします。

塩見　綾香　先生（国語科）

この学校に来たばかりで右も左もわからないので、ぜひ気軽に声をかけてください！よろしくお願いします！

板山　浩志　先生（地歴公民科）

皆さんと同じこの鶴高の出身です！一緒に最高の一年間を過ごせることを楽しみにしています。よろしくお願いします！

立原　誓也　先生（地歴公民科）

鶴高生のみなさん、何事も後悔しないように全力で熱く頑張っていきましょう！

室井　龍二　先生（数学科）

「数学は面白い！」と思ってもらえるように、数学の授業を生徒たちと楽しく行いたいです。

太田　圭祐　先生（数学科）

生徒の皆さんと一緒に、数学の楽しさを伝えられるような授業を作っていきます！よろしくお願いします。

藤田　陽子　先生（数学科）

数学が身近で面白いものだということを伝えていきたいです。よろしくお願いします。

武田　虎多朗　先生（理科）

教師としての人生を日鶴で始めることができて嬉しいです。一年間よろしくお願いします！

市田　啓子　先生（英語科）

皆さんと一緒に楽しく授業ができるように努力していきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

渋谷　治輝　先生（英語科）

英語という言語に魅了され、英文法の不思議な世界を彷徨いましょう。

野上　歩海　先生（保健体育科）

担当しない学年やクラスもありますが、みなさん一人ひとりとたくさんお話ししていきたいです！

令和5年度

第1学年担当教員紹介

学年主任

小林　仁（地歴公民科）

担任

A組　相沢　由美（地歴公民科）
B組　松井　秀之（国語科）
C組　谷　幸一朗（数学科）
D組　菊山　新士（地歴公民科）
E組　冨田　俊（英語科）
F組　浅見　美幸（保健体育科）
G組　村山　大輔（国語科）
H組　片桐　暢明（情報科）
I組　武田　玲（英語科）
J組　高部兼太朗（保健体育科）
K組　中森　秀紀（理科）

副担任

徳田あゆみ（国語科）
柿沼　宏暢（英語科）
石山　道宏（数学科）
磯崎　宏（英語科）
金箱　春菜（数学科）

学年付

近藤　明宏（理科）

第一学年 オリエンテーション

学年主任 小林　仁

「日常が戻ってきた。」宿泊を伴う形式としては、四年ぶりに実施されたオリエンテーションについては、この言葉がすべてである。

四月十二日、八時半バス乗車完了。バスの配車トラブルがあったものの、中央道が順調であったので、無事に富士緑の休暇村に到着することができた。我々の入館と入れ替えに、櫻丘高校が帰京する。これも例年どおりである。

ガイダンスは初日と二日目に分けて行われた。初日は校長から「宿泊行事ができるのは、当たり前ではない」「多様な人との対話」「校歌の歌詞」の話をしていただいた。学年主任の私は「三つの基本的な生活習慣」「三つの大切にしてほしいこと」「三つの行動の在り方」について話した。二日目は、生活指導部から「集団生活の心がけ」「社会や学校のルール」等を、生徒会指導部から「十人の人からサインをもらう」「生徒会組織」等を、教務部から「単位や評価」等の話をそれぞれしていただいた。新入生はガイダンスでの話を理解し考・動してもらい、一日でも早く「鶴高生」になる事を期待している。

新入生の相互理解と協調性の育成や担任と生徒との相互の親睦と信頼性の確立のためのプログラムとして、クラスミーティングや相談室プログラム、レクリエーションがある。

クラスミーティングは、すべてのクラスを回ってみたが、担任の先生の個性がよく出ていた。相談室プログラムは、「サバイバル」というタイトルのコンセンサスゲームである。自分の意見を主張したり相手の意見を傾聴したり、他者の価値観を尊重したり意見が食い違った時にどのように行動すればよいかを考えるゲームである。レクリエーションは、恒例の不思議と盛り上がる綱引きとハイキング。ハイキングはコロナ禍による生徒の体力低下への懸念から、コースを短縮して行った。全クラス紅葉台を目指し、余力のあるクラスはその先の三湖台もチャレンジした。これらのプログラムは、いずれも先に上げた目的の達成につながったものとなったと感じている。生徒は、安心して学級担任やクラスメイトを頼って欲しい。

入学して一週間もたたないうちに宿泊行事を行うことに、不平や不満を口にしていた生徒が多かったと推測するが、解散時の生徒の顔を見れば、充実した三日間であったことが分かる。やはりこれも例年どおり。

日常が戻ってきたことをかみしめながら帰路についた。

B組　布野　桃子（鶴川二中）

「新しい友達とは考え方が違うのが当たり前で、たくさんの人と話をして、いろいろな考え方を知りたい。」とこのオリエンテーションを通して思いました。クラスミーティングでは、あまり話したことがない人たちとグループワークをすることになり、どう話せばいいか戸惑いましたが、しっかりと話し合いをまとめることができました。人の意見を聞いて自分の考えが変わるという体験は新鮮な驚きでした。自分から人に話しかけ、クラスのメンバーとコミュニケーションを取るようにし、もっと仲を深めていきたいと感じました。

I組　羽鳥　光紀（深川四中）

このオリエンテーションを通して、集団生活にはルールが必要であり、みんなが安全で快適に過ごすための重要なものであると改めて感じた。ルールを守ることは周囲への思いやりを持つことでもあると思うので、意識していきたい。

綱引き大会では、優勝や準優勝には届かなかったがとても楽しめたし、クラスの仲が深まったと感じた。一つの物事に対して一致団結し、みんなで全力で取り組めたことは大きな糧となった。今後の学校行事にも活きてくるだろう。

これから本格的に部活動や委員会活動も始まり忙しくなるが、「ゆっくり鶴高生になればいい」という校長先生の言葉を思い出しながら、充実した毎日を送りたい。

第二学年
いざ鎌倉！

学年主任
齋藤　純

晴天に恵まれた五月十二日、生徒達は鶴岡八幡宮前に集合した。当日は新型コロナウイルスが第五類になった直後ということもあり、鎌倉は多くの人で賑わっていた。

例年の校外授業は、新宿近辺に集合してバスで現地へ行き課外活動をしてバスで戻ってきて解散、という流れが一般的である。しかし、今回はあえて現地集合とし、生徒の自主性と探究活動を中心とした新しい形の校外授業を企画した。

今回の探究活動の目的は、班別自主研修を行い、担任におすすめの観光マップを完成させることである。昨年度の探究活動の到達目標は「自己理解」、そして今年度は「他者理解」である。そこで、まず身近な担任のことを知り、担任のことを考えたプランを作成してみよう！というのが今回のテーマである。

作成ルールは三つのキーワードを盛り込むこと。一つ目は「ふわふわ」「ぴかぴか」などのオノマトペ（擬音語・擬態語などの総称）、二つ目は日本遺産を二か所、三つ目は色、である。生徒達はこのキーワードに基づいた場所や食べ物などを調べ、班員と相談し、コースを決定した。生徒が多く訪れた場所は定番の高徳院（長谷）の大仏、銭洗弁財天、小町通りであったが、小さなお寺を訪れたり、食にこだわって長距離を歩いた班など様々であった。集合時間ぎりぎりまで楽しんだ班も多く、班員の仲も深まったようであった。

校外授業が終わったあとは、総合的な探究の時間に現地で撮った写真を使ってスライドを作り、ロイロノートでまとめた。担任はおすすめプランを作ってもらっていいなぁ、と羨ましく思いながら生徒の発表を見ていたが、各班とても魅力的な観光マップを作成しており、感心させられた。

二年生での最大の行事は十二月に実施される沖縄への修学旅行である。この経験を生かし、「他者理解」をより深め、今まで以上に、自分のことだけではなく他人の気持ちを考えることができる人になってもらいたい。

校外学習の振り返り

D組　早川　千尋（東京学芸大竹早中）

○鎌倉や日本遺産の魅力について感じたこと・考えたこと

初めて鎌倉の大仏や長谷寺に行き、実物の迫力に驚かされました。正直に言うと私はお寺や大仏などの日本遺産は退屈なのではないかと考えていましたが、目にしてみるとその大きさや造り、景色に感動しました。

○自分がチームに貢献したこととグループ活動について感じたこと・考えたこと

チームのメンバーは初めて話す人ばかりだったので、最初は不安に感じましたが、計画を立てたり、場所を回っているうちにどんどん会話も増えていき楽しく周ることができました。私自身のことを振り返ってみると、今まで話す機会が少なかったメンバーに積極的に声をかけ、みんなで仲良くなるきっかけ作りをすることができたのかなと感じています。地図を見て先に歩いてくれたり、次の計画を提案してくれたりみんながそれぞれの役割を果たしたことでとても楽しい校外学習になったと思います。

○今回の校外学習で自分が考えたこと・学んだこと・成長したこと

鎌倉には海外からの観光客の方がたくさんいてとても驚きました。私も鎌倉に初めて来たのでまだまだ知らないことだらけでしたが、日本遺産に登録されている建造物や街の雰囲気がとても魅力的だと感じました。大仏や長谷寺の写真は沢山見ていましたが実際見てみるのとでは迫力や感動が全く違っていたので、これを機に日本遺産や日本のいいところを残す観光地をいろいろ訪れたいなと感じました。今回の校外学習を通して、自分の言葉で自分の国の誇れる遺産を紹介することができるようになりたいと思いました。

生徒の作成資料一部抜粋

第三学年 校外授業

学年主任 滝澤　満

五月十二日、三学年の校外授業は日本科学未来館と日の出桟橋から出港するシンフォニークルーズをおこなった。

日本科学未来館は「科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々にひらかれた場」として二〇〇一年七月、二十一世紀を迎えた年に開館した施設である。

生徒への事前指導として、展示物の見学から技術の進歩によりどのような『未来』が訪れるのか、生活はどのように変化するのか、君たちが生きる未来を創造することを課題とした。また、便利、快適、楽しい、安心なことだけではなく、社会の変化から生じる新しい問題を想像し、どのように対応していけばよいか想像が膨らむことを期待した。

これから進路決定をしていく学年であり、未来を見据えて進路先で何を学び成長していくのかを考える一助になればと考えて見学場所を選択した。

シンフォニークルーズでは、テーブルマナー講習を受けつつ昼食をとり、クラスの親睦を深める目的でおこなった。航路は、日の出桟橋から二隻の船にクラスごとに分かれて乗船し、東京湾内をクルーズする。東京湾から羽田空港の飛行機の離着陸を見て、修学旅行を思い出す生徒もいた。

五月八日から新型コロナウイルス感染症は五類感染症に移行となり、換気などの感染症対策を十分にとりながら、顔を向かい合わせての食事がとれるようになった。船内で笑顔で食事をしている生徒を見て、学校行事も以前を取り戻しつつあることを実感した。

最上級生としてスタートし、四月には基礎学力到達度テストが実施された。六月には鶴ヶ丘祭で模擬店が行われる。そして受験生としての夏休みをむかえて、九月には最後の基礎学力到達度テストが控えている。一月には共通テスト、二月、三月での一般選抜を乗り越えて、第一志望をつかみ取ってほしい。

学びの一日

A組　木村 栄輝（府中六中）

今回のお台場での校外学習では、大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、未来の科学技術への展望だ。初めに訪れた日本科学未来館では、宇宙開発、医療、そして環境問題など、さまざまなテーマの展示がされていた。中でも、環境や社会の変化により、私たちの子孫に受け継ぐ未来がどうなるのか、という体験型のシミュレーションには心動かされるものがあった。現時点での私たちの行動がいかに責任あるものなのか、それを実感させられた。今年の九月まで、一階の企画展示ゾーンにて「月でくらす展」を開催しているようだ。今回は見ることができなかったので、今度機会があれば行ってみようと思う。

二つ目は、フォーマルな場におけるテーブルマナーだ。昼食のときに受講した船上テーブルマナー講習では、ナプキンやカトラリーの使い方や食事中のルールなど、なかなか学ぶことのない教養を実践形式で習得することができた。数をこなさないことにはどうにもならないとは思うが、今後そういった場に参加するときのための良い練習になった。きれいな食べ方ができるよう、ナイフとフォークを時々使ってみるのも良いかもしれないと思った。

以上のように、今回の校外学習では、身近なことから未来のことまで学ぶことができた。生徒として、そして一人の大人として、それにふさわしい立ち振る舞いや行動ができるよう、今後も精進していきたい。

2022年度（令和４年度）の進路概況

令和４年度卒業生の進路概況として、大学・短期大学・専修学校の総合的な進学率は96.2％でした。日本大学へは66.9％が進学し昨年度よりも４ポイント増加しました。一方、日本大学以外の大学（防衛大学校含）へは28.6％が進学し、昨年度よりも3.6ポイントの減少となりました。

日本大学以外の大学進学者の試験種別としては、総合型選抜が2.8％、学校推薦型選抜が17.5％、一般選抜が8.3％でした。昨今の総合型への比率が増えていく大学入試全般の傾向の中、本校においても総合型と学校推薦型選抜の合計数が一般選抜の２倍以上を占めました。

本年度は日本大学も含めた短期大学への進学者はいませんでした。専修学校への進学者数は昨年度と同様の0.9％でした。また、防衛大学校への進学者が１名、就職者は１名でした。

さて、日本大学への進学状況をもう少し詳しく見ていきます。令和４年度卒業生の日本大学への進学状況が前年度よりも増加した要因として、主に次の点が考えられます。１つ目は、基礎学力選抜においていくつかの学部で定員の増加がなされたことです。２つ目は、コロナ禍でZoomでのオープンキャンパスが多かった中、現地での学部見学会（特に付属生限定等）に足を運び、授業だけでなく大学の雰囲気をじかに感じられたことは日本大学への進学を後押しする大きな要因となったと考えられます。また、進学者数には直結しませんが、一般選抜での合格率が前年度よりも10ポイント以上高く約85％が合格した点も特徴としてあげられます。さらに、過去５年間の進学者数の中で特筆するものとして、法学部では進学者数が最高となりました。これは上述した学部の定員増が大きな要因と考えられます。さらに生物資源科学部では、難関の獣医学科の合格者数が前年度より６名増えて９名となりました。工学系の分野に目を向けると、理工学部だけではなく生産工学部や工学部といった同一系学部にも目を向けた進路選択がされました。

日本大学以外を見ていくと、全国的にはセンター試験から共通テストに変わって受験率が下がる中、本校では国公立大学を目指す生徒が多くいました。中には筑波大学や東京都立大学に学校推薦型選抜で合格した生徒もいました。また、共通テストで厳しい判定が出ていながら二次試験で見事合格を手にしたケースもありました。私立大学においては、全国的には「やや理高文低」で、文系では「経済・経営・商学系」が増加、理系では「医学・歯学・獣医学系」などの上位資格系が増加しました。本校においては、早慶上理やGMARCHの合格者数が前年度を10人以上上回りました。受験する大学は例年同様多岐にわたり、令和４年度も生徒一人一人が自分のやりたいこと、目指すものをよく考えて受験している様子がうかがえました。

令和４年度卒業生　合格状況

令和５年３月31日現在

大学名	合計	学部名	普通コース	特進コース
日本大学				
日本大学	59	法	52	7
	56	文理	50	6
	45	経済	41	4
	26	商	23	3
	19	芸術	18	1
	5	国際関係	3	2
	2	危機管理	1	1
	3	スポーツ科	3	0
	36	理工	33	3
	9	生産工	9	0
	1	工	1	0
	1	歯	1	0
	1	松戸歯	1	0
	58	生物資源科	47	11
	3	薬	3	0
国公立大学・準大学				
筑波大	1	人文・文化	0	1
千葉大	1	園芸	0	1
東京外国語大	1	国際社会	0	1
東京学芸大	1	教育	1	0
東京都立大	4	健康福祉・システム・理	1	3
東京農工大	1	工	1	0
横浜国立大	1	経営	0	1
信州大	1	人文	0	1
高碕経済大	1	地域政策	0	1
静岡文化芸術大	1	デザイン	0	1
防衛大学校	1		1	0
早慶上理				
早稲田大	9	法	1	0
		文化構想	0	2
		文	0	2
		教育	0	2
		社会科	0	1
		スポーツ科	1	0
慶應義塾大	1	総合政策	0	1
上智大	3	総合グローバル	0	1
		理工	2	0
東京理科大	9	理	1	0
		工	1	0
		創域理工	1	1
		先進工	2	0
		経営	3	0
GMARCH				
学習院大	12	法	5	0
		経済	2	1
		文	2	0
		理	2	0
明治大	16	法	1	0
		商	0	1
		文	1	0
		理工	1	1
		農	1	1
		経営	1	2
		情報コミュニケーション	0	1
		国際日本	0	4
		総合数理	1	0
青山学院大	12	経済	1	0
		経営	0	3
		総合文化政策	0	2
		理工	4	1
		地球社会共生	0	1
立教大	11	文	1	0
		異文化コミュニケーション	0	1
		経営	1	2
		社会	1	2
		観光	1	0
		理	1	1
中央大	7	法	3	1
		経済	0	1
		商	1	0
		文	1	0
法政大	23	法	2	2
		経営	4	0
		人間環境	0	2
		キャリアデザイン	0	2
		社会	3	0
		情報科	1	0
		生命科	1	1
		デザイン	0	2
		理工	3	0
その他私立大学				
桜美林大	1	教育探究科	1	0
大妻女子大	1	比較文化	0	1
学習院女子大	2	国際文化	1	1
関西外国語大	1	英語キャリア	1	0
関東学院大	2	法	0	1
		社会	0	1
北里大	2	理	0	2
共立女子大	3	文芸	1	0
		ビジネス	0	1
		国際	0	1
国立音楽大	1	音楽	1	0
工学院大	2	先進工	1	0
		建築	0	1
國學院大	2	人間開発	1	0
		法	1	0
国際基督教大	1	教養	1	0
国士舘大	1	法	0	1
駒澤大	1	法	0	1
実践女子大	1	生活科学	0	1
芝浦工業大	3	工	1	0
		システム理工	1	0
		建築	0	1
順天堂大	1	スポーツ	1	0
尚美学園大	1	芸術情報	1	0
昭和大	1	薬	1	0
昭和女子大	3	国際	0	1
		人間社会	1	0
		環境デザイン	0	1
昭和薬科大	2	薬	2	0
城西国際大	1	メディア	1	0
女子栄養大	1	栄養	1	0
白百合女子大	1	人間総合	1	0
成蹊大	6	経営	0	1
		法	1	0
		文	1	0
		理工	3	0
成城大	11	経済	2	1
		文芸	4	0
		法	1	0
		社会イノベーション	3	0
聖心女子大	1	現代教養	0	1
清泉女子大	1	文	1	0
聖徳大	1	教育	1	0
専修大	2	文	0	1
		国際コミュニケーション	0	1
大正大	1	仏教	1	0
玉川大	4	教育	1	0
		文	1	0
		農	0	1
		工	1	0
多摩美術大	2	美術	0	2
千葉科学大	1	危機管理	1	0
津田塾大	2	学芸	0	2
帝京大	1	文	1	0
帝京平成大	2	薬	1	0
		ヒューマンケア	1	0
東京医療保健大	2	医療保健	1	1
東京家政大	2	人文	1	0
		健康科学	1	0
東京家政学院大	1	人間栄養	1	0
東京工科大	2	医療保健	1	1
東京純心大	1	看護	1	0
東京女子大	12	現代教養	3	9
東京電機大	1	システムデザイン工	1	0
東京都市大	3	情報工	1	0
		建築都市	0	1
		都市生活	0	1
東京農業大	12	農	0	1
		応用生物	3	0
		生命科学	1	3
		国際食料情報	1	2
		生物産業	1	0
東京薬科大	3	薬	2	0
		生命科学	1	0
東邦大	1	看護	0	1
東洋大	5	経営	0	1
		国際	0	4
日本獣医生命科学大	1	獣医・獣医保健看護	1	0
日本女子大学	3	理	1	0
		人間社会	0	2
日本女子体育大	1	体育	1	0
日本赤十字看護大	1	看護	0	1
武蔵大	2	経済	0	1
		国際教養	0	1
武蔵野大	13	データサイエンス	0	2
		人間科学	0	3
		教育	2	0
		薬	3	0
		看護	1	2
武蔵野美術大	1	造形	0	1
明治学院大	6	文	1	2
		経済	0	1
		社会	1	0
		国際	0	1
横浜薬科大	2	薬	2	0

学校名	合計	普通コース	特進コース
専門学校			
慈恵看護	1	1	0
東京スクールオブミュージック	1	1	0
東京ホテル観光＆ホスピタリティ	1	1	0
国際文化理容美容	1	0	1

第２学年　修学旅行の報告

先発班：令和５年３月５日(日)～９日(木)　後発班：令和５年３月６日(月)～10日(金)

修学旅行広報担当：中川　光

３学期の学年末試験を終え、年度末に最後の学年行事である「修学旅行」が実施された。新型コロナ感染者が減少しつつあるものの、感染対策と安全確保を第一に考えての修学旅行であった。昨年に引き続き、沖縄で実施された５日間の修学旅行を振り返る。

初日の午前に羽田空港を出発し、午後那覇空港到着後に訪れたのは、ひめゆり平和祈念資料館ならびに平和祈念公園であった。前の戦争で犠牲になった沖縄の方々の苦悩を知り、恒久的平和を念願することの大切さを感じとってくれたのではないかと思う。

２日目は、沖縄本島の南から北へ、北から南へと縦断する形で、まずは「美ら海水族館」を訪れた。普段見ることができない「ウミガメ」や「ジンベエザメ」などの海洋生物、華麗な技を披露する「イルカショー」を鑑賞し、海との関わりが深い沖縄の魅力を実感した。午後は那覇に戻り、首里城見学後に国際通りにおいて班別研修をおこなった。

３日目は石垣島に移動後、フェリーに乗船して「竹富島」を訪れ、沖縄の風土に触れることができた。班別行動になったこともあり、各班で協力しながら、島を散策した。

４日目は全５コースに分かれてのオプショナルツアーを実施。カヌー、クルージング、シュノーケリングなど、各自が選択したコースを十分に満喫できたと思う。

５日目は帰京の日となるが、午前中は川平湾においてグラスボートに乗船し、美しい海中と景色を堪能した。そして最後に訪れたのが、国・登録有形文化財「石垣やいま村」である。貴重なマングローブを見ることができ、さらにリスザルにも触れることができる場所であった。ここで昼食を済ませた後、石垣空港、那覇空港を経て、午後７時過ぎに羽田空港に到着した。

５日間を通して本当に天気に恵まれ、汗ばむほどの好天であった。第２学年の生徒の中には、コロナ禍の影響により中学校時代に修学旅行を経験していない者が多い。それ故に今回この修学旅行は、格別な思い出が残る行事になったと思う。この５日間の経験や思い出が、生徒たちの今後の人生に良い影響を及ぼすと確信している。

修学旅行を通して

３Ｅ（旧２Ｅ）　松下　歩未（東調布中）

４泊５日の沖縄への修学旅行では、様々な場所へ訪れ沖縄の魅力を感じ、東京では味わえない素晴らしい大自然に出会うことができました。また、鶴ヶ丘高校に入学して初めての宿泊行事ということもあり、クラスのみんなとの仲も深まりとても思い出に残るものとなりました。その中でも特に印象に残っている場所があります。それは１日目に、平和学習で訪れたひめゆり平和祈念資料館です。

ひめゆり平和祈念資料館には、第二次世界大戦沖縄戦で、負傷した兵士の看護のために使われていたガマと呼ばれている洞窟がありました。実際に中を覗いてみると、昼間でしたがガマの中は暗く、底が見えないほど深くなっていて、この暗闇の環境で、私たちと同じ10代のひめゆり学徒の方々が親元を離れ、十分な食料も無く、寝る間も惜しんで働き続けていたと考えると、とても胸が痛みました。他にも、当時の医療器具や沖縄戦の遺品の展示や実際に沖縄戦を経験された方々の体験談・証言映像を拝見するなど貴重な体験をすることができました。

沖縄での平和学習を通して、私たちが普段当たり前と感じている十分な睡眠時間と食べ物があることや、家族や友達と他愛もない会話をして過ごせるこの毎日が、どんなに幸せなことかを気付かされました。それと同時に、戦争は二度と繰り返してはいけないことを再認識するとともに、今回の平和学習で学んだことを次の世代へ繋いでいくことの大切さを、改めて痛感しました。

修学旅行を振り返って

３Ｌ（旧２Ｌ）　土佐　和音（音羽中）

５日間の修学旅行で、濃密な時間を過ごすことができました。

１日目の平和学習では、普段あまり考えない「幸せ」について深く考えました。ガイドの方の「過去は悔やんでも変えられないけど、未来を変えるのは君たちだからね」という言葉が特に印象に残っています。未来の日本を任された私たちは、より平和について考えるべきだと思いました。

２日目の美ら海水族館では、東京ではあまり見られない珍しい魚を見ることができました。「ウミガメがプラスチックゴミを食べてしまう問題」についての展示が心に残りました。海をもっと綺麗に保たなくてはいけないと思いました。

３日目は竹富島を散策して、東京とは違った離島ならではの雰囲気を感じることが出来ました。

４日目のシュノーケリングでは、初めての体験だらけで戸惑いもありましたが、魚が目の前にいて感動しました。

当初は修学旅行に行けるかどうか分からず不安でしたが、人生初の修学旅行に無事に行くことができ、帰って来ることができてよかったです。５日間共に過ごした友達、旅費を出してくれた家族、引率の先生全員に感謝をしたいです。

三年生を送る会

生徒会指導部　久保田善政

三年生を送る会が二月二十四日（金）に開催された。卒業式を一週間後に控え、また大学受験中の生徒もいることから、新型コロナウイルス感染症の予防対策により、前日までに一・二年生が準備をし、当日は三年生のみでの実施となった。はじめに校内を歩き回っての教職員メッセージ探し。これは校内に貼られたＱＲコードを探してｉＰａｄで読み取ると教職員のメッセージが現れるというもの。生徒たちはいろいろな先生・職員の方からのメッセージを受け取り、楽しみ、喜んでいる様子が至る所で見受けられた。次にクラスに戻って、教室で動画観賞。部活動の後輩や先生方からのメッセージと三年間の思い出を辿るスライドショー、最後は一・二年生の全員合唱「旅立ちの日に」をクラスで視聴し、高校三年間を振り返って無事終了となった。

相談室

高校生が一日の大半を過ごす学校は、実にさまざまなことが起こる場所です。友だちとの関係、部活動のこと、進路の悩み…ひとりで抱えるにはあまりに大きな困難や課題と直面しながら生徒は生活しています。

そのような問題は周囲の友達や家族、先生方に相談することで解決できるものも多いとは思います。しかし、時には誰に相談していいのかわからなくなり、焦り、不安が募ることもあるでしょう。また、ただ話を聞いてもらいたい、気持ちをわかってもらいたい、そう願うことも少なくはないと思います。そのようなときには生活相談室を訪ねてみてください。相談室は修学寮の一階にあり、きれいであたたかな空間です。一人でも、友だちと一緒でもかまいません。「ちょっと休憩してみよう」という感覚でお話しをすることができます。

新しい環境での生活に体は慣れても、心が慣れるまでには時間がかかることもあるでしょう。これでいいのかなと迷ったり、ちょっと無理してがんばってしまっていることにつかれてしまったり。少しずつでも自分らしく笑顔で楽しく生活したい、とは誰もが願うこと。一人でも多くの生徒が居心地のいい環境で充実した学校生活を送れるよう、生活相談室がお手伝いをしたいと思っています。時間のかかることもあるとは思いますが、不安などを解消できるよう一緒に考えていきましょう。

今年度は日本大学本部より火曜日と金曜日にカウンセラーが来校いたします。また、相談室直通の電話もあります。お気軽に相談室をご利用ください。

教育実習

５月22日から６月10日まで、８名の実習生が３週間の教育実習に取り組んだ。緊張と期待を胸に日々成長を遂げる実習生達は大変頼もしく感じられた。本校での経験が、今後教職に就いた際の糧となることを願う。

令和５年度　実習生一覧

実習生氏名	教科（科目）	教科担当者	HR担当者
田中　絢菜	国　　語	松　井	松　井
石井　百音	日本史探究	長谷川	長谷川
太田　魁一	歴史総合	桐　田	冨　田
芹澤　凛香	英　　語	武田(玲)	武田(玲)
島上　　陽	数　　学	谷	谷
久保田健太郎	保健体育	高　部	高　部
服部　花恋	保健体育	浅　見	浅　見
影山　颯大	情　　報	片　桐	片　桐

部活動報告

■スキー部
▽第58回関東高等学校スキー大会
（１/22～25　於：スノーパーク尾瀬戸倉）
男子ジャイアントスラローム
第49位　渡部　浩太（青木中）
女子ジャイアントスラローム
第４位　植松　春香（常盤中）
第15位　田口　真帆（大綱中）
第30位　稲垣　海咲（つくし野中）
第32位　森　きなり（高田中）
男子スラローム
第１位　植松　幹太（埼玉大学教育学部附属中）
第11位　近藤　優太（瀬田中）
第61位　杉山友季哉（府中十中）
第63位　渡部　浩太
第90位　中谷　優心（高津中）
女子スラローム
第３位　植松　春香
第22位　稲垣　海咲
第25位　森　きなり
第32位　堀口あかり（稲城六中）
▽第72回全国高等学校スキー大会
（２/４～12　於：山形赤倉温泉スキー場）
女子ジャイアントスラローム
第36位　植松　春香
第113位　森　きなり
女子スラローム
第31位　植松　春香
第77位　田口　真帆
第109位　稲垣　海咲
男子スラローム
第92位　近藤　優太
▽第61回東京都高等学校総合体育大会
（２/14～18　於：鹿沢スノーエリア）
女子ジャイアントスラローム
第２位　森　きなり
第７位　稲垣　海咲
第12位　堀口あかり
第18位　山下小柚妃（旭中）
男子ジャイアントスラローム
第８位　近藤　優太
第23位　渡部　浩太
第24位　中谷　優心
第53位　杉山友季哉
第68位　長澤　結音（三鷹二中）
第74位　長澤　楓音（三鷹二中）
第78位　小野田洸太（東田中）
第83位　佐藤　友哉（緑中）
女子スラローム
第５位　稲垣　海咲
第７位　堀口あかり
男子スラローム
第15位　近藤　優太
第24位　渡部　浩太
第25位　中谷　優心
第50位　牛山　陽登（西生田中）
第57位　杉山友季哉
第65位　長澤　結音
第68位　佐藤　友哉
選考会学校対抗入賞
第１位　女子
第１位　男子
本大会学校対抗入賞
第２位　女子

■野球部
▽春季東京都高等学校野球大会（４/３～９）
１回戦　本校８×－０八王子北　（７回コールド）
２回戦　本校15×－１町田　（５回コールド）
３回戦　本校８－12早稲田実業　※ベスト32

■アメリカンフットボール部
▽令和５年度東京都春季大会兼第49回関東高校アメリカンフットボール大会予選（４/９～５/14）
１回戦　４/９　シード
２回戦　４/16　シード
３回戦　４/23　@日大鶴ヶ丘高Gr.
本校42－14日大豊山
準決勝　５/４　@佼成学園Gr.
本校０－１佼成学園（棄権不戦敗）
３位決定戦　５/14　@早大東伏見Gr.
本校40－48足立学園
東京都　第４位　関東大会出場決定

■男子ソフトテニス部
▽新進シングルス大会（２/19）
都ベスト32　小亀　臣仁（志木中）
▽春季大会(関東選手権予選)(４/23)出場
▽関東団体選手権予選（５/３・４）
都ベスト16
板橋　壱成（桜川中）
丸山　賢二（赤塚三中）
金子　祐万（御成門中）
森本　拓磨（深沢中）
小亀　臣仁（志木中）
阿閉　裕樹（深沢中）

■女子ソフトテニス部
▽関東大会予選（個人）（４/16・23）
中村　結衣（高南中）・楠美　優美（清明学園中）
決勝大会　１回戦　本校４－２葛飾野
２回戦　本校１－４国本女子
敗者復活戦
本校０－４国本女子（ベスト32）
古村　杏（大森中）・石本まなみ（薬師中）
決勝大会　１回戦　本校２－４日体大桜華（ベスト64）
▽関東大会予選（団体）（５/３・４）
決勝大会　１回戦　本校２－１武蔵村山
２回戦　本校０－２清瀬（ベスト８）

■放送部
▽第50回吹奏楽部定期演奏会 放送協力（３/26）杉並公会堂大ホール

■演劇部
▽藤二鶴公演（日大藤沢・二高・鶴ヶ丘合同公演）（３/26）
▽はいすくーるドラマすぺしゃる@俳優座劇場（４/３）
「屋上の話」作 むらやまだいすけ　上演
▽東京都城西地区春季発表会（４/30）
「演劇部の話」作 むらやまだいすけ　上演

■吹奏楽部
▽第50回定期演奏会 開催（３/26）
杉並公会堂大ホール
▽高井戸セーフティアクション 出演（４/２）
▽荻窪交通安全パレード 出演（５/13）

■バトントワリング部
▽令和５年３月第37回東京都高等学校バトン連盟新人戦
銀賞受賞
▽令和５年６月鶴ヶ丘祭 演技披露

■料理部
▽Table For Two活動 プレゼンテーション（２/４）
▽手作り味噌（３/23）
▽防災訓練炊き出し実施（３/27）
▽テーブルマナー講習@渋谷エクセルホテル東急（３/30）
▽Table For Two活動 料理部考案定食販売（309食販売）
@日本大学文理学部　食堂　秋桜
「ごま油香る日中韓ブレンド定食」
（４/17、18、28　160食販売）
「肉じゃがそのままコロッケ定食」
（４/20、21　売上96食販売）
「鮭と蓮根のラブラブ定食」
（４/24、25　53食販売）

第1学年　オリエンテーション

第2学年　校外学習

第3学年　校外学習